



第5回

採用と教育

持続可能な自立型企業づくりで百年企業をめざす
社員の個性を引き出し、自主性の発揮できる風土をつくる

㈱サニックス 代表取締役 佐藤 啓氏(山形)



委員会活動を通して

業(サービスマン)と三采自動車工業(製造業)の二次産業(製造業)を掛け合わせ、総合自動車サービスマンとして、新しい価値を生み出して行く第六次産業化を表現しています。色にはコーポレートカラーであるトリコロールが使われ、青、白、赤にはそれぞれ「自由、平等、博愛」の意味が込められています。ロゴにはメッセージとして「listen to the car voice」と書かれていて、これは車を顧客と捉え、車の声を聴き、車を笑顔にする、それは車でモノを運ぶ人も、運んでもらう人も、ひいては地域を笑顔にする、その笑顔を作っているスマイルファクトリーであるという意味が込められています。これらのデザインは社長や幹部ではなく、若手の社員が中心となって考えています。㈱サニックスのブランディングは、社員がどんな会社で、どんな働き方をしたいかを自らが考え、形にする取り組みなので、

委員会活動を通して

㈱サニックスでは二〇一一年から経営指針作成に取り組み、二〇一四年に成文化をしました。当初の指針は社長の思いだけで作った制度のようになっていて、社内は辛苦しい雰囲気になっていました。経営指針の成文化を通して、会社の風土づくりを行って、さまざまなことが社員主導で行われるように変化しました。社内には環境美化委員会や社内報委員会など九つの委員会が生まれ、社内報の作成や5S活動などが行われています。

その中で二〇一五年四月に創刊された社内報は年四回発行され、比較的文字を少なくして写真を多く使い、職場の様子や社員の皆さんの雰囲気や伝わりやすいようラフなコンセプトで作られています。従来の自動車整備業は3K職場であり、明るいイメージを抱いてもらえない仕事ですが、この社内報を社員が家族に見せる



2017年の新入社員のみなさん(左)、社長をはじめ常に笑顔の絶えない社員のみなさん(右)社内はとても明るい雰囲気です。

こと、会社を知ってもらえることができ、安心して働けるようになったと言います。また分かりやすい社内報は、就職活動中の学生や教員、取引先にも好評です。

これらの社内報の作成や委員会活動は、社員自身が会社の良さを見いだすだけでなく、業務を通してだけでは見えなかった社員それぞれの個性や良さを引き出すことにもなっており、それを社員同士で認め合う活動となっていると佐藤氏は話します。

採用と教育
山形同友会で共同求人委員を務める佐藤社長が山形同友会に入会したのは二〇一〇年、新卒採用を始め今年で五年目となります。

山形同友会では山形大学と連携して低学年を対象にインターシップ受け入れの取り組みを行っています。㈱サニックスでも三年前からこの取り組みに参加し、昨年は男女二名ずつを受け入れました。インターシップは受け入れの負担の大きさと、メリットの見いだしづらさからハードルが高いものと思われがちです。佐藤氏は、学生のそれも早い段階から地元の人

ある企業が選定されるもの。そんな㈱サニックスでは、地域の担い手企業として、百年企業を掲げています。それには社員全員が自発的に行動し、課題や問題を自分たちで解決できる自立型企業であることが求められると佐藤氏は考えています。自社への理解と誇り、働きがいをもってもらうためのブランディングプロジェクト、社員の個性や良さを引き出す委員会活動、インターシップの取り組みが佐藤氏の考える持続可能な自立型企業づくりです。

後輩に何かを教える訓練にもなります。中小企業では定期的な新卒採用は難しい部分がありますが、インターシップ生を受け入れることで、新しい視点、考え方が会社に入り、会社にも大きなメリットがあるのです。

インターシップは学生と企業がお互いに学びあう共有活動でもありません。㈱サニックスでは、インターシップ生に企業説明会で使用するプロモーションビデオの製作に携わってもらいました。今の学生が就職する際に重視しているのは、職場の人間関係です。全社員が登

企業を知ってもらうことで、さきの就職活動に地元で働くことを選択肢に入ってもらえること。またインターシップは学生側だけでなく、受け入れた企業の社員の教育にもなることと話します。インターシップに来る学生は、会社のことや社会人として働くことなど何も知らずに会社に来ます。それを学生に教えるには、教える社員が必死に勉強しなければならず、その経験を通して会社、仕事への理解を深め、後輩に何かを教える訓練にもなります。中小企業では定期的な新卒採用は難しい部分がありますが、インターシップ生を受け入れることで、新しい視点、考え方が会社に入り、会社にも大きなメリットがあるのです。

佐藤氏は、七月五六日に宮城で開催される中間協第五十回定時総会第五分科会で報告します。

ユニフォームに付けられている「32」の数字の下には「listen to the car voice」と記されています。

ある企業が選定されるもの。そんな㈱サニックスでは、地域の担い手企業として、百年企業を掲げています。それには社員全員が自発的に行動し、課題や問題を自分たちで解決できる自立型企業であることが求められると佐藤氏は考えています。自社への理解と誇り、働きがいをもってもらうためのブランディングプロジェクト、社員の個性や良さを引き出す委員会活動、インターシップの取り組みが佐藤氏の考える持続可能な自立型企業づくりです。